

[様式 18]

1. 開催年月日 令和4年8月25日
2. 開催場所 三原駅前キオラスクエア内 サテラス
3. 委員出席
 委員総数 6名
 出席委員数 4名

 オブザーバー 1名

 放送事業者出席者
 1名
4. 議題
 番組審議・ご要望について
5. 議事の概要
 (1) 開会宣言
 放送事業者からの開会宣言

 (2) 局からの現状報告
 (第47回三原やっさ祭り特別番組について)

・第47回三原やっさ祭り特別番組

事務局「初日の8月12日金曜日は『フライデーライブショー：やっさ祭りだよ！5時間連続生放送！』を三原駅前スペースキオラスクエア内のサテラスから放送を行った。

内容は金曜日の通常放送番組である

14時～15時 金曜日どんどん

15時～17時 藤田弘之のみはら情報局ラジオ

17時～19時 イブニングスペシャル

番組の中で『第47回三原やっさ祭り』のルールを告知。リスナーに今年のやっさ祭りの参加方法について案内。また、関係者からどのような想いで『第47回三原やっさ祭り』を開催したかについてコメントを頂いた。イブニングスペシャルでのゲストは岡田市長、森光会頭。また、踊り終わった出演者にゲストに来てもらい、感想を伝えてもらった。加えて会場ヘレポーターが行き、会場の雰囲気伝えた。

二日目は8月13日土曜日「みんなのPower！やっさを元気に！やっさで元気に！」。17時から20時まで3時間の生放送。前日と同じく、やっさ祭りへの集客よりもやっさ祭りへの想いを届ける番組にした。

ゲストは

- ① やっさ祭りの歴史について：山崎様
- ② 初日の優勝チーム：本町町内会の正田様
- ③ 三原やっさ祭り実行委員会：実行委員長 野竹様
- ④ ゲストで三原市出身の舞台俳優：森田様
- ⑤ ラジオドラマ「青春トリック」の出演者：高校生 3 名

三日目の 8 月 14 日日曜日は「やっさ花火フェスタ 2022」19 時から 21 時まで生放送。花火大会自体は 20 時から 45 分間だったが花火が上がる 1 時間前から放送を始めた。やっさ祭り以上に花火大会には会場でのルールがあったので繰り返しルールについて伝えた。また、やっさ祭り実行委員会野竹実行委員長とミスやっさに出演して頂き、花火大会への想いを語ってもらった。花火が上がっている間はリスナーからのリクエスト『花火を見ながら聴きたい曲』を放送。花火を見る時の BGM として届けた。この他、現地レポーターと会場の様子を伝えた。

6. 審議内容

第一号議案「番組審議について」

番組名「ラジオドラマ『青春トリック～夏の日の約束』」

放送日：令和 4 年 8 月 13 日土曜日 16 時

再放送：令和 4 年 8 月 14 日日曜日 13 時

事務局「三原市シティプロモーションの企画『三原×クリエイター プロジェクト第一弾ラジオドラマ』。三原市出身のクリエイター白木原怜次氏から 2021 年頃「三原市の為に何か出来ないか？」という話があり、そこから始まった企画。ラジオドラマに地元の高校生を参加させてみてはどうかという案も出て、高校生も参加することになった。また、舞台をやっさ祭りにすることにより、やっさ祭り開催中の放送になった。担当は白木原氏が脚本、高校生がナレーション、FM みはらが収録、最終的な編集は白木浜氏。出演者についてはオーディションを開催。三原高校、三原東高校の演劇部の生徒を中心に参加。三原リージョンプラザで白木原氏が選考した。当初 30 分ドラマの予定だったが若干オーバー。やっさ祭り期間中の 8 月 13 日土曜日の 16 時から放送した。再放送は 8 月 14 日日曜日の 13 時。今後は YouTube などでのアップも検討中。

A 氏「ラジオドラマを聞いたが出演者の高校生が声優みたいで驚いた。」

B 氏「高校生のレベルの高さを感じた。今後、別の作品の企画等は考えているか？」

事務局「今のところ計画はない。ただ、非常に良い機会を頂いたので考えていきたい。」

B 氏「高校生たちの顔が出て良いのであれば三原テレビでも放送したい。声を聴いていると顔が気になる。収録の様子なども見てみたい。」

事務局「今回は期間がなかったためオーディションの告知があまり出来なかった。今後はオーディションを大々的に告知し、多くの人を巻き込んでいきたい。」

B 氏「他にもラジオドラマを作ってもよいのでは？今はスマホで発信まで完結す

[様式 18]

ることができる。能力の高い高校生も多い。出来たものを発信することで三原市のPRにも繋がるのではないか。」

C 氏「『YouTube で冒頭だけ公開し、続きはラジオへ』という形にすればラジオへ誘導することもできるのではないか。やり方によってリスナー獲得に繋がる。また、今回のドラマは30分以上ある長尺。昔のラジオドラマのように毎日、少しずつ放送しても良いのではないか。」

事務局「ラジオドラマについては色々な可能性があると感じている。製作方法も発信方法も考えていきたい。」

第二号議案「要望について」

D 氏「株式会社樹創家のように一般の方が番組を作っている。反響はどうか。」

事務局「一般の方が作る番組は切り口が放送業界の人と違って面白。先日も有名なラジオリスナーをゲストに呼んだ。この日の放送は非常に反響があった。業界が違う人の発想は非常に面白い。今後もこのような番組を作りたいと思う。」